

## contents

- ・ 新年のご挨拶  
 病院長、患者支援センター長
- ・ 平成 28 年度病院年報刊行予定
- ・ 診療科紹介  
 産科婦人科、神経内科
- ・ 講演会、研修会のお知らせ
- ・ 年末年始の診療記録



編集：杏林大学医学部付属病院  
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2  
Tel. 0422-47-5511（代表）

杏林大学病院



## 新年のご挨拶

### 病院長 岩下 光利



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

本年から二次医療圏ごとの地域医療構想も調整の段階となりました。当院も将来の医療需要予測に基づいて、高度急性期だけでなく一般急性期の患者さんにも対応した体制を整備してまいりましたが、急性期を脱した患者さんの回復期に対応した地域の医療施設への移送が円滑に行われないことが、どの二次医療圏でも問題となっています。

東京 23 区と比べ医療資源の少ない多摩地区にあっては、地域の拠点病院である当院では、なおさら回復期の患者さんの管理も求められております。高度急性期から地域包括ケア体制への切れ目のない移行を構築するには、地域医療施設との密接な連携が不可欠と考えます。

昨年 11 月には当院主催で 2 回目の「医療連携フォーラム」を病院内で開催し、近隣施設の先生方との交流を深めましたが、このような企画を通して地域の先生方と一緒に病病・病診連携を促進し、よりよい地域医療体制を作り上げていく所存です。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様にとって本年も幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

### 副院長・患者支援センター長 塩川 芳昭



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中のあたたかいご支援に心より感謝申し上げますとともに、引き続きまして本年も変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当院では、昨年 11 月に第 2 回となります杏林大学医療連携フォーラムを開催させていただきました。140 名を越える多くの先生方、医療スタッフの皆さまのご参加をいただき、あらためまして御礼申し上げます。

当日は院内数か所の見学ツアーや、当院の消化器内科、皮膚科、呼吸器内科から最新の医療事情や診療科の特徴などについて講演したあと、外来棟の日比谷松本楼で情報交換会を行いました。そこでは前回の医療連携フォーラムでのご要望にお応えする形で、紹介患者さんの FAX 受付時間を延長したことや、昨年 12 月から医療機関からの当日受診専用ダイヤルを開設したことなどもご報告いたしました。ご参加の先生方からは、さらなる外来予約の円滑化や、杏林大学で治療された患者さんの状態変化などに速やかな対応を求めるとご意見をいただき、患者支援センターの今後の活動につなげてまいりたいと思います。

新しい年を迎え、皆様方とのより緊密な医療連携の構築をめざして決意も新たに組みたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 「平成 28 年度病院年報」2 月に刊行予定

病院年報では、外来診療実績、入院診療実績、患者満足度調査の結果、医療の質・自己評価、各診療科の診療体制や患者構成、先進医療への取り組み、各部門の活動実績などを掲載しています。年報は医師会や地域の医療機関等へお届けしますが、HP でも閲覧できます。



## ◆ 産科婦人科



多摩地区の周産期医療の要となる MFICU 病棟

周産期、腫瘍、不妊内分泌および女性医学の4つの分野全てにおいて高度な医療の提供を心掛けています。当院は多摩地域で2つある母体救命対応（スーパー）総合周産期母子医療センターの1つであり、積極的に母体搬送を受け入れています。また出生前診断から小児外科治療まで一貫した管理が可能です。

一方、助産外来やセミオープンシステムを活用し、安全と快適の両立に努めています。不妊治療での体外受精に加え、筋腫や内膜症などを合併した患者さんでは手術から不妊治療まで継続して行います。婦人科は5人の婦人科腫瘍専門医と2人の内視鏡技術認定医のもと、良性から悪性まで幅広い疾患に対してできるだけ低侵襲手術や機能温存を目指した治療を行っています。女性医学では更年期障害の他、若年婦人科癌治療後のホルモン補充療法や骨粗鬆症の治療を行います。そして全ての分野において、キュアだけでなく精神的サポートも含めた全人的なケアを目指します。



## ◆ 神経内科

脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気の診断や治療を行う診療科です。頭痛、めまい、脱力・筋力低下、しびれ・感覚障害、歩行障害、構音・嚥下障害、複視、意識障害・意識消失発作、物忘れ、失語など多岐にわたる症状の患者さんを診察しています。病歴（症状の内容と経過）と神経診察を主軸に、血液検査・髄液検査・画像検査・電気生理検査などを行って診断と状態を評価し、治療方針を決めていきます。

具体的には、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症などの「免疫性神経疾患」、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの「神経変性疾患、遺伝性神経疾患」、脳

炎・髄膜炎などの「感染性疾患」、てんかん・頭痛などの「機能的疾患」が対象であり、厚生労働省により難病に指定されている疾患も多く含まれます。ギラン・バレー症候群の免疫性神経疾患の自己抗体測定、臨床遺伝的アプローチによる遺伝性神経疾患の診断などは、当科で特に力を注いでいる分野です。

多摩地区における講演会・研究会の開催や、三鷹市医師会との連携による在宅神経難病患者訪問診療なども行っており、今後も近隣機関との連携を密にし、地域医療の充実に努めてまいります。



## 「がんとともにすこやかに生きる」 - 講演会、語らいの場 -

患者さんご本人や家族、友人、がんになった時のことが心配な方など、どなたでも参加いただけます。

- 2月3日（土）「がん対策政策、制度、お金」  
NPO がんと暮らしを考える会 理事長 賢見卓也氏
- 3月10日（土）「がん哲学外来～共に生かされてを知る」  
順天堂大学医学部 教授 樋野興夫氏

時間：13時30分～14時30分（講演会）  
14時45分～15時45分（語らいの場）

場所：第2病棟4階 大学院講堂

※参加費・予約不要

\* 最新情報はHP「がんセンター」ページをご覧ください



東京都福祉保健局委託事業

## 平成29年度 小児がん地域連携推進研修会

日時：2月9日（金）19時～21時  
会場：たましん RISURU ホール（立川市民会館）第1会議室  
対象者：小児科医師等医療従事者  
参加費：無料、当日は軽食をご用意しております

### プログラム

- 講演1「小児がん患者のワクチン接種」  
東京都立小児総合医療センター 荒木孝太郎氏
- 講演2「日常診療で診る緊急性を有する小児血液・腫瘍性疾患」  
当院 小児科 助教 宮澤永尚
- 講演3「地域医療で遭遇する小児血液・腫瘍疾患」  
当院 小児科 准教授 吉野 浩

問合せ・申込み：当院 病院庶務課  
TEL:0422-47-5511（代表） FAX:0422-47-3821

## 年末年始の診療記録



昨年12月28日夕方から1月4日朝までの年末年始期間中に急病等で来院した患者さんは1,551人でした。

2017年12月28日夕方～ 2018年1月4日朝まで		患者数（人）	1,551
救急車 台数	1・2次	162	
	3次	37	
3次救急患者数（人）		61	

診療科名	救急総合	内科系	外科系	精神神経科
患者数	584	147	21	5
診療科名	小児科	小児外科	脳神経外科	心臓血管外科
患者数	269	0	51	4
診療科名	整形外科	皮膚科	形成外科	泌尿器科
患者数	117	62	56	39
診療科名	眼科	耳鼻咽喉科	産科婦人科	SCU
患者数	80	84	19	13